

土木工事数量算出要領 の 改定・改訂・訂正

適用年月日
(令和7年(2025年)7月1日以降積算基準日適用)

区 分	ページ	現 行	改 定	備 考
2章 土工 4. 数量算出方法	共通 ー50	(1) 掘削 1) 算出区分 掘削する領域、土質区分、施工方法ごとに区分して算出する。また、河川では、築堤、高水敷、低水路に区分して算出する。 また、堤防横断構造物の <u>掘削を行う場合</u>、下図のとおりA領域、B領域に区分して算出する。 注) 1. 余裕幅は、止水壁から0.5mを標準とする。 (止水壁の無い場合の余裕幅は0.5mを標準とする) 2. 法勾配(n)①砂地盤 1:1.5 ②その他地盤 1:1.0 上記は一般的な場合であり、これにより難い場合は、法面安定計算等により設定する。 3. 雪寒仮囲いを使用する場合は、必要幅を計上すること。	(1) 掘削 1) 算出区分 掘削する領域、土質区分、施工方法ごとに区分して算出する。また、河川では、築堤、高水敷、低水路に区分して算出する。 また、堤防横断構造物の <u>施工において堤防開削を行う場合は</u>、下図のとおりA領域、B領域に区分して算出する。 注) 1. 余裕幅は、止水壁から0.5mを標準とする。 (止水壁の無い場合の余裕幅は0.5mを標準とする) 2. 法勾配(n)①砂地盤 1:1.5 ②その他地盤 1:1.0 上記は一般的な場合であり、これにより難い場合は、法面安定計算等により設定する。 3. 雪寒仮囲いを使用する場合は、必要幅を計上すること。	適用条件の 具体化

4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。

平均断面法または「1. 10 BIM/CIM モデルによる数量算出方法」によることを標準とする。

平均断面法

土量＝平均断面積×延長

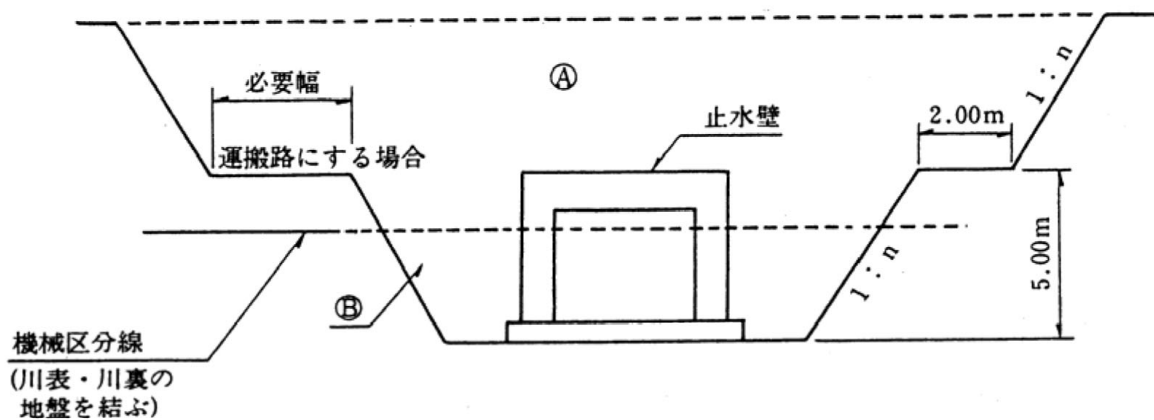
法面積＝平均法長×延長

（1）掘削

1）算出区分

掘削する領域、土質区分、施工方法ごとに区分して算出する。また、河川では、築堤、高水敷、低水路に区分して算出する。

また、堤防横断構造物の施工において堤防開削を行う場合は、下図のとおりA領域、B領域に区分して算出する。



注) 1. 余裕幅は、止水壁から0.5mを標準とする。

(止水壁の無い場合の余裕幅は0.5mを標準とする)

2. 法勾配(n)①砂地盤 1:1.5

②その他地盤 1:1.0

上記は一般的な場合であり、これにより難しい場合は、法面安定計算等により設定する。

3. 雪寒仮囲いを使用する場合は、必要幅を計上すること。

2）距離のとり方（道路）

道路中心線上の距離とすることを標準とする。

[参考]

半径の小さな曲線部（道路中心線でR=50m未満）等で、道路中心線上の距離をとることが適当でないときは、計算断面の図心位置での距離としてよい。